

9章 おわりに

新潟県中越地震では、阪神・淡路大震災をはじめとした都市臨海型地震とは対照的に、被災地が中山間部に位置し、地盤や斜面が崩壊したことにより埋設管路や構造物等の水道施設が被害を受けたことが、今年の現地調査結果でも確認されている。

さらに、同じ中越地方でも、長岡市や小千谷市の市街地を給水区域とする上水道と、川口町や旧山古志村の山間部に点在する集落に給水する簡易水道では、水道施設の被害の態様、復旧の進捗状況は大きく異なっていることが明らかになった。特に、旧山古志村では、もともと水源が乏しいため、隣の旧長岡市内に主要水源を確保してそこから村内の各集落を結ぶ送・配水管で給水するというシステムを採っていたこと、地盤や斜面の崩壊が凄まじかったことに伴って水道施設の被害も甚大であったことなどの特徴を有していることが確認された。

本報告書は、地震発生から約9ヶ月を経過した山古志地域での現地調査の結果及び調査時に提供された資料に基づき、水道施設の被害状況を中心に今後の課題・提言等を取りまとめたものである。また、今年の現地調査に基づく「新潟県中越地震水道被害状況報告書」（平成17年2月）の山古志地域編という位置づけでもあり、重複する事項については最小限の記述にとどめた。上述のような山古志地域の被害の実態や復旧方法、それらを踏まえた課題と提言が、全国各地の同じような中山間部での、今後の小規模水道施設のあり方、水道施設の耐震化等地震対策を検討する上で、参考になることを期待する。

旧山古志村と合併した長岡市では、同地域の水道施設の復旧目標を「平成18年9月」に掲げ、日本水道協会中部地方支部の水道事業体の協力を得てプロジェクトチームを作り、現在も精力的に復旧作業に当たっている。

ご多忙の中、本調査にご協力を頂いた長岡市水道局職員の皆様に、深く感謝申し上げます。併せて、豪雪地帯で積雪期の工事ができないという厳しい条件下にもかかわらず、高い復旧目標を掲げて勉励されていることに敬意を表するとともに、1日も早い水道施設の復旧を心から祈念する次第である。